

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-059672

(43)Date of publication of application : 02.03.1999

(51)Int.Cl. B65D 17/32
B65D 17/50

(21)Application number : 09-252566 (71)Applicant : ONO NIZO

(22)Date of filing : 14.08.1997 (72)Inventor : ONO NIZO

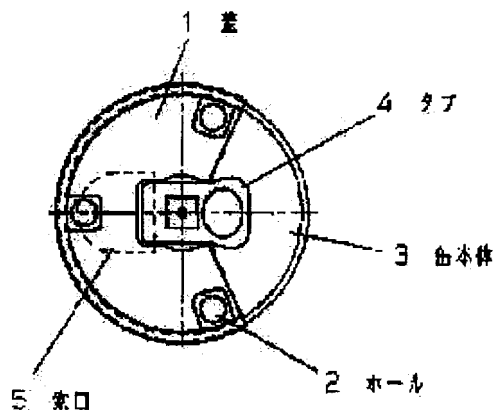
(54) DRINK CAN

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent dust or the like from attaching to the vicinity of a drink port to allow drink to be hygienically and reliably drunk by putting a rotatable lid to cover the drink port on an upper part of a drink can with tab.

SOLUTION: A lid 1 with a part of a disk in a sector and a center part cut in a U-shape bypassing a tab 4 is attached to an upper part of the drink can to cover a drink port 5 of a can body 3. The lid 1 has an outer periphery bent in stage to be freely rotatable along a shape of a caulked part at an upper rim of the can

body 3 wherein its outer dimension is larger than a semicircle so as not to be removed easily. The lid 1 does not rotate before drinking with a U-cut face in contact with the tab 4, but when the drink port 5 is unsealed by folding back the tab 4, it is freely rotatable so that contents can be taken from the drink port 5 with the lid 1 rotated to an opposite position. In addition, during drinking, the lid 1 can be put back to lid the drink port 5.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-59672

(43) 公開日 平成11年(1999) 3月2日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 17/32
17/50

識別記号

F I

B 6 5 D 17/32
17/50

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-252566

(22) 出願日 平成9年(1997) 8月14日

(71) 出願人 597133097

小野 二三

埼玉県川口市前川町4丁目19番地25

(72) 発明者 小野 二三

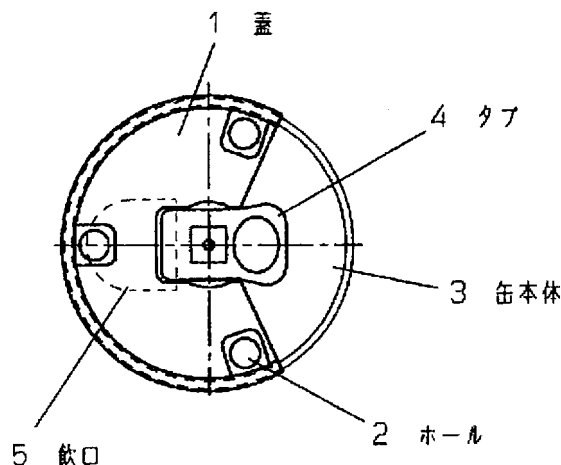
埼玉県川口市前川町4丁目19番地25

(54) 【発明の名称】 飲料缶

(57) 【要約】

【課題】 既存のタブ付き飲料缶は、飲口が露出している為埃等が付着し、又飲口の板が缶の中に折り返され付着した埃等が飲物に混入する等、極めて不衛生である、従って、飲用時缶を水で洗う等の衛生予防策が必要となる。

【解決手段】 円盤状の一部を扇状に、中心部をU形にタブを除けてカットした形状の蓋を既存の缶上に設け、飲用前は飲口部をふたし、飲用時は蓋を回して飲口を開き、飲用中必要に応じてふたをすることによって、飲口部に埃等が付着しない等衛生的で且つ簡便な飲料缶を創り出す。尚、蓋は缶本体と一体構成の為簡単に取扱いが出来る、リサイクル等も従来と同様に行える。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 公知タブ付飲料缶上に、円盤状の一部を扇状に中心部を U 形にタブを除けてカットした形の蓋を、缶本体と一体構成でしかも自由に回転するよう設けた飲料缶。尚、この場合の蓋は、飲用前は飲口を覆い U 形カット面がタブに当たり回らず飲用時、タブを折り返したることによつて蓋が自由に回る構造をしている。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は缶に於ける、飲口部を衛生的に保持することを目的に、新しい機能を有した飲料缶を提供するものである。

【0002】

【従来の技術】 既存のタブ付飲料缶に於ては、飲口部に埃等が付着しないよう包装等で工夫はしているが、本来の商品そのものの衛生処置は改善されていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 既存の飲料缶に於ては、飲口部が露出しているため埃等が付着し極めて不衛生で安心して飲める状態になっていない。

【0004】 その為、飲口部を衛生的にすることを目的に、簡便な飲料缶を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 前記目的を達成する為、既存の飲料缶に使い易く簡単な構造を有した蓋を設けることによって、飲口部を衛生的なものにして解決するものである。

【0006】 蓋の形状は、円盤状の一部を扇状に、中心部をタブを除けてカットした形状で飲料前は飲口部がふたされ、飲用時蓋を回して飲むようにしている。

【0007】 取付は、缶上のカシメ形状に添わせて外周を段付状に曲げ、自由に回すことが出来、又、外形が半円より大きい為、簡単には取外せない構造になっている。

【0008】 さらに蓋は、飲用前は飲口を覆い U 形カット面がタブに当たり回らず、飲用時タブを折り返したことによって蓋が反回転でき、飲口が開くようになっている。

【0009】 飲用中は、タブが折り返してある為蓋を元の位置に戻す事ができ、飲口をふたする。

【0010】 蓋は缶本体と一体の構成の為、簡単に取扱いが出来、リサイクル等も従来と同様に行える。

【0011】 既存の缶に缶本体と一体を構成する蓋を設

けたことによって、新たな機能が加り、簡便且つ極めて衛生的な飲料缶である。

【0012】

【発明の実施の形態】 図 1 は飲用前の状態で蓋 1 が、缶本体 3 の飲口 5 部を覆うようにふたをしており、埃等が付着しない構造になっている。

【0013】 蓋 1 は、円盤状の一部を扇状に、中心部をタブ 4 を除けてカットした形状をしている。

【0014】 その為、タブ 4 の折り返しの邪魔をせず、又反対側に回した時飲口部が適正に開くよう考慮している。

【0015】 図 2 は、図 1 の断面図で、蓋 1 はタブ 4 を除け外周は缶本体 3 の形に添わせ曲げている、この為蓋 1 は確実に取り付けられ、適正な隙間を与えることによって回すことも可能になる。

【0016】 ホール 2 は、蓋 1 を回す為さらには剛性アップの為設けた。

【0017】 図 7 は、タブ部の詳細図で、飲用前に蓋 1 が回らないよう U 形カット面が、タブ 4 に当たるようにしている。

【0018】 図 3 は、図 2 の状態からタブ 4 を折り返した状態で、飲口の板が缶の中に折り曲げられている。蓋 1 は何等邪魔をしない。

【0019】 図 8 は、図 3 の蓋 1 の上を断面にした詳細図で、タブ 4 が折り返された為蓋 1 の U 形カット面は当たらず、蓋 1 は自由に回ることが可能になる。

【0020】 図 4 は、飲用する為蓋 1 を反対に回した図で、飲口 5 が蓋 1 のカット部から顔を出して、従って飲口 5 部は清潔な状態を保ったことになる。

【0021】 図 5 は、図 4 の断面図である。

【0022】 図 6 は、図 5 の状態からさらに蓋 1 を反対に回し元に戻した図で、飲用中缶の中に埃等が混入しないようにしている。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 飲用前平面図である。

【図 2】 同上断面図である。

【図 3】 同上断面図である。

【図 4】 飲用時平面図である。

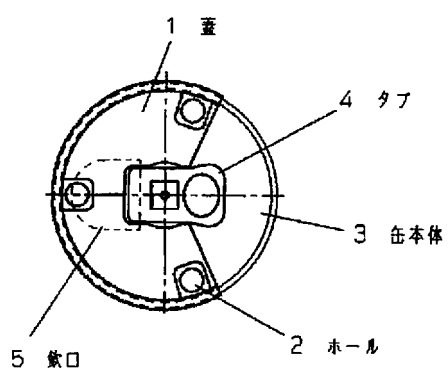
【図 5】 同上断面図である。

【図 6】 飲用中平面図である。

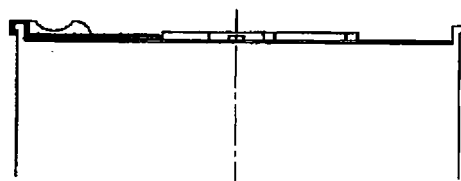
【図 7】 平面詳細図である。

【図 8】 平面詳細図である。

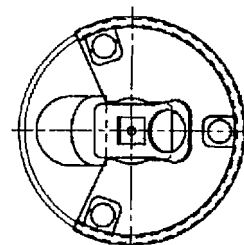
【図1】



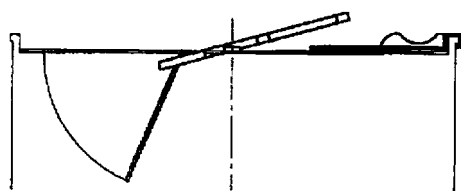
【図2】



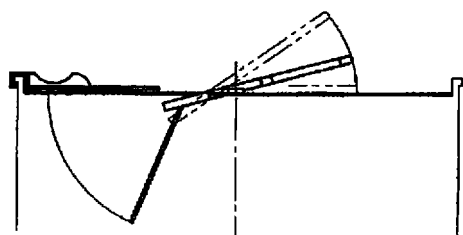
【図4】



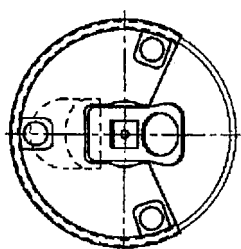
【図5】



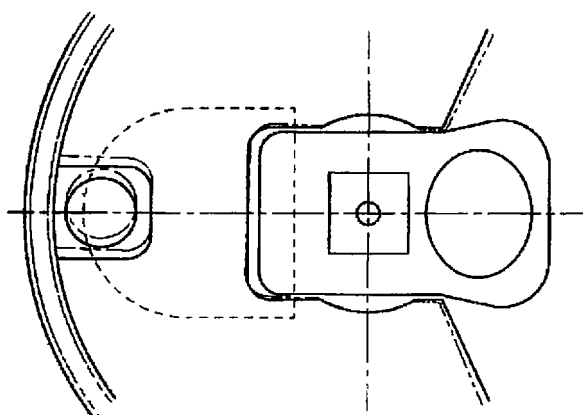
【図3】



【図6】



【図7】



(4)

特開平 1 1 - 5 9 6 7 2

【図 8】

